

守りたい、ハワイ固有の自然と文化



山の麓に広がるカロ(タロイモ)の水田。タロイモはハワイアン主食であり、アプアアの循環の要でもある。

「JAL Group Spirit」の動画もぜひご覧ください



「Mālama 1」を通じて
ハワイの3つの
NPO団体を
支援しています



カウアイ島&マウイ島 ナショナル熱帯植物園
オアフ島 サステイナブル・コーストラインズ・ハワイ
オアフ島 カコオ・オイヴィ

ハワイに有する4つの植物園と、保護区、研究センターのネットワークにより、熱帯植物と生態系が永続できる環境づくりに取り組んでいます。植物園では、地元の学生や旅行者らが植物や生態系について学ぶ機会を提供しています。

海岸を大切にする地域社会の実現を使命に、人々が気軽にクリーンアップ活動などに参加できる環境づくりを推進しています。場所にあわせた活動プログラムやレクチャーを実施し、プラスチック消費削減の意識向上などに取り組んでいます。

固有の文化、教育、生態系回復プログラムを通じて、地域コミュニティの社会的・経済的發展を促進しています。JALグループ社員もヘエア湿地帯で再生中のタロイモ畑を訪れ、農作業を通じて支援プロジェクトを体験してきました。

JALからハワイへ、愛を込めて

2024年2月、JALハワイ線は就航70周年を迎えました。旅の感動を与え続けてくれるハワイにJALグループから恩返しをしたい——そんな私たちの思いを形にしたのが、同年6月に導入した「JAL Mahalo 運賃」です。ハワイ線限定の運賃プランとなり、お客さまに購入いただいた航空券の運賃の一部相当額を、ハワイの環境・文化保護活動に取り組む現地NPOへの支援に充てる仕組みです。各団体への寄附は、ハワイにおける自然保護、文化継承、イノベーションの3つの分野で活動支援を行っている機関「Mālama 1」を通じて実施しており、JALは現在3つの団体を支援しています。

ひとつめはオアフ島でタロイモ栽培などの伝統農業による農地再生・環境回復に取り組む「カコオ・オイヴィ」。ふたつめはホノルルを拠点にビーチクリーン活動などを開催する「サステイナブル・コーストラインズ・ハワイ」。3つめはカウアイ島とマウイ島でハワイ固有種の保護・再生を行う「ナショナル熱帯植物園」です。これらの団体は、ハワイ独自の生活共同区画の考え方「Ahupua'a (アプアア)」をベースに、ハワイ固有の文化やハワイアンの価値観などを地元のコミュニティや

今回のテーマに該当する目標



旅を通じて支援の輪を広げたい

子どもたちに継承する役割も担っています。

「Kai = 海から 'Aina = 陸へ」とつながる地域全体をひとつの区画とみなすアプアアは、里海・里山と共に暮らしてきた日本人にも馴染みやすい考え方だと感じます。ハワイの皆さまの「アプアアを大切にしたい」という思いに寄り添いながら、海と陸それぞれのフィールドで持続可能な活動を行っている団体を支援先に選びました」と、レベニューマネジメント推進部企画グループの和田英莉は話します。

「ハワイへの感謝と敬意を込めて、新たな運賃プランをMahalo (ハワイ語でありがとうの意) と名付けました。今後、JAL便ご利用のお客さま向けの現地アクティビティに、ビーチクリーン活動や農業体験を加えるなど、お客さまと一緒にハワイを支援する仕組みを充実させていきたいです」と和田。これまでに多くのお客さまを迎え入れてきたハワイは、JALとお客さまのつながりを長きにわたって支えてくれた地でもあります。JALグループはこれからも、空の旅を通じてハワイの豊かな環境と文化の保全に貢献できるように努めてまいります。

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

